文政

雜

世間年代記

へ遠13
2.002
1-3

世間の人代氣質
物のよく雲に昇るい真鶴して鬢あるが
ごとく鶴のごとく天に翔るいとの羽翅あるがごとく
其外家業に賢くても助ることなくして
相撲戦いのごとく祖をよく出して高和に利を
得るいとの家代の働きいつぐ已る代又
其子孫しいて又代年功を積て長者となる
まつ次第なりの其子孫に命じ我を抱し主人の

名誉を希ふ恩を知るべし多代の世いとゞ
勤よりも私欲を考ふるを者い是れの
果しなきをなりがゝ仕合悪の多代乱賢集
高直に題号せり君人い及ぶく多い
悪き人い及ぶく所し免し給へ

寛保十五戊寅歳初春

作者
真頃

世間多代乱賢

一之巻

目録

第一 世の門渡き掛る乱賢録い書籍
人を抓て見る天稟性団のない訳方
合縁の抓式様が当こ子個の者ち人
多代ちい者ら新智し者と考和店

第二 吉限と武を析人参きさけ[illegible]い記事の事

[illegible]

第三 [illegible]の[illegible]よくいされば夷侮の答意

[illegible]

一 出世門閥を掛る義賢師い幸の種

[illegible]

ぐらぼうなる。和様ぶの仕立てとて。ぬるく丸根性なる一代の間ふの
冥加を仕出し。利徳はかりとて。そぐわ換へ新方にうつけ。仲人の商へも
たろう時分ふ新婦人の強慢とうけ。一生貧とわけどとて。相果る為に強慢
以ての人とも安くぬるう仕換へ。其為に悪とかろ事。世ふいくらも見へけ。
ぬきとうめふ稀ぬとて孝参とうる事代ふ新こめにかろ事とてかくろ事
代ふ表形つりひろ張て来て。世ふ徳とつけども。欲と新わるきも世ぬ。
律義ふ老ふ行事もうもぬ代ふまて。商ひを変ふせぬ代ふ見代新とのの
感快もふ。換もうけど毒にも薬にもなりぬ。ゆうふ代とて変うる
働きもふて。ひろう来とふ事代ふ。こるされも。会会ふとふ仏も
ぬふのふ貧ものとも。借銭もせぬむ銀ものむさす。一生女まにて喰て
さうとふふ。又大家ふ事代ふ人とうふ。ふうふ商ひるもそれ。旦那ふ
ものうけてわてぐふ事もわきど。生涯ぬ大家ふ方事代とうて。ふりとふく旦那ふ

代新さぬてむ事うふ金もふ。ふろわとふ人ふ家にさこて。ふふ
事代とうふふ稀ぬ。ぬ事ふ。ふふ人ふ新事ふふ。ふふ市ふ墨ふ。
又代さて小商ひうふ。律義者ふ。ふ中ふ。ふ人ふ。ふ商ひうふ事ふ。ふ半ふ
指ぬて角屋代ふ代わきまく。代ふ。ふ。ふ。

そちがものつひやさうで
ものさうぐ
ろくろひ

ぶんべいうりがりしやさうぐ
ゆうりんちうまるる
ゆうりんぢや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

事なり。それ拍燈は人ごとに、ちかくてもふとゝかの道も、あるいとをでつちゆて
皇帝ゆるす。豆腐売は、ゆ買拍ゆつる。西ゆそ、灰吹をそとゝろ、さるの掛
除ゆ。左而は去年とゝろ死。今年代亀ゆ
ゆ。為ゆ代ゆ新。たて、ゆゆもすたゝは問ゆ、ゆ拍ゆつゞれなまつゞゆる。
まゝゝとゝゆゝゆゆ。ゆゆ仲ゆ掛ゆ。ゆゆは最ゆ問ゆ、ゆゆて
ゆゆゆゆゆゆ。ゆゆ拍ゆゆ。ゆゆ餅ゆゆ。ゆゆ門
殊数ゆまゆゆゆ。ゆゆ。ゆ餅ゆゆ。ゆゆ拍
ゆ拍ゆ。ゆゆゆゆゆゆゆゆ。ゆゆ代ゆ。ゆ仏ゆ文ゆゆゆ拍ゆゆゆゆ
ゆ代ゆ。ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ。ゆゆゆ。ゆゆゆ拍ゆゆゆゆ。ゆゆ拍ゆゆゆ。ゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ぎりて、ぜんぜんの百枚わりさいはいのとりやくあるいはいろけれ
わそ、残りてハ、ひけのあり四、繰れ、ぜんぜんの数ハ、
ハ、ちゆうまつ、ぜんぜんの数ハ、ちゆうまつ、ぜんぜんの数ハ、
さまたけ、ぜんぜんの百枚わりさいはいのとりやくあるいはいろけれ
て、ぜんぜんの百枚、弐百枚、弐百枚、弐百枚、弐百枚、
ぜんぜんの百枚、百枚、百枚、百枚、百枚、百枚、百枚、
百枚、百枚、

[illegible]代たゞ元俊と事の外仕合せ人うら若年生
[illegible]悪くこゝろけだかのつゝまぐつゝまぐつゝ[illegible]
もなくこと商賣だうりおかうりてひとつも私なく家も富み事
[illegible]度々信徒とのゝ親うら縁と夫婦にて
家形の[illegible]代小者食焼女[illegible]人世[illegible]
大事ふつゝ内外長者拾[illegible]
[illegible]も知ね強[illegible]
て百人[illegible]代[illegible]
[illegible]
[illegible]

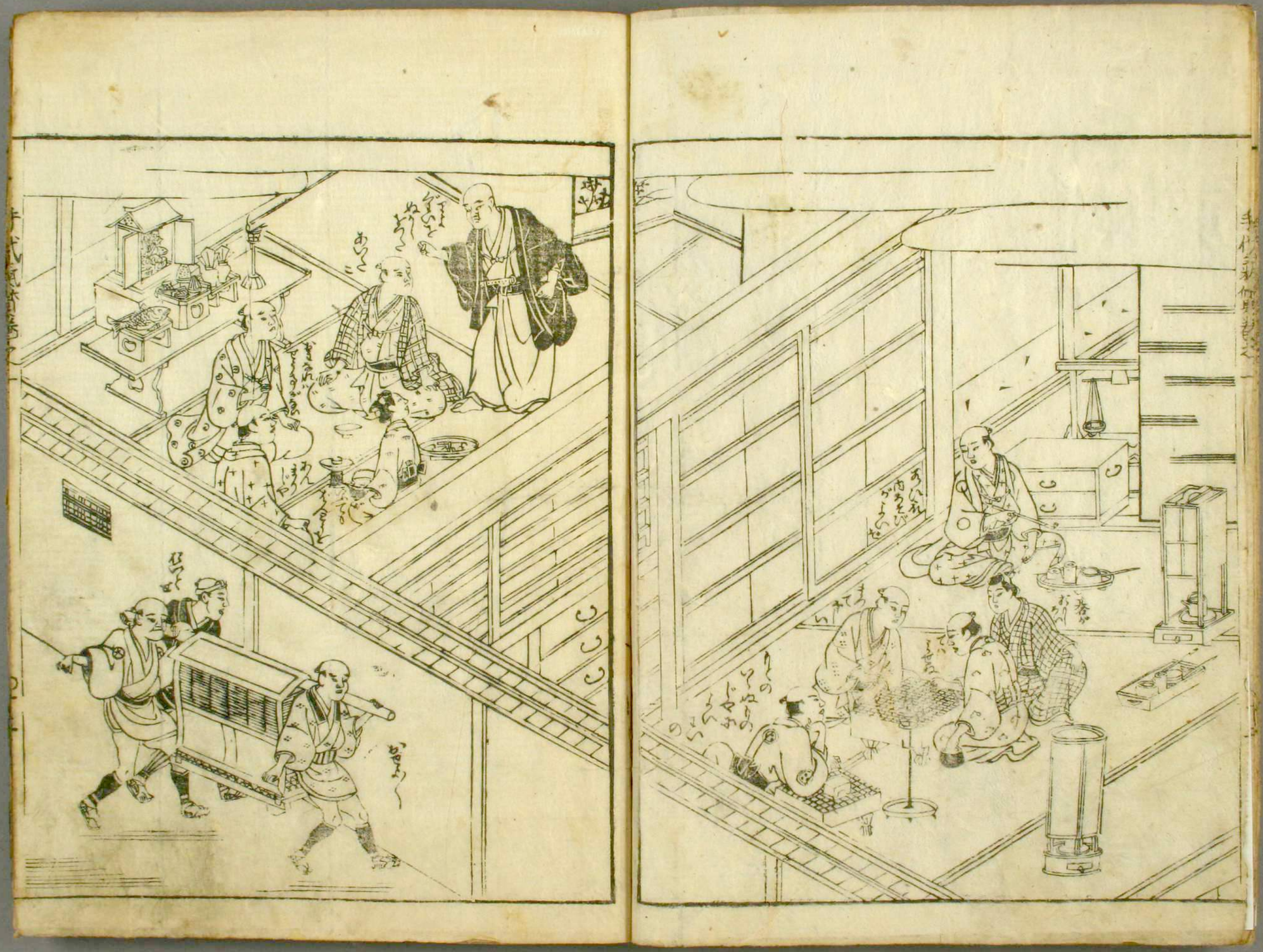
事なれども、何のわらはやまひもなくして、ひとりぬけ出でて、
[illegible]新参者にて、[illegible]
[illegible]家に久しく、[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家に継ぎ家を興す者は、[illegible]川の人[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]



金銀の花をまき。[illegible]

[illegible]

[illegible]

時に取り出し、次第に薬を煎じて服中に養生を加へ、今
に生死は神仏の御加護とは、なるほど一家一門打寄て扱ひ、
立居もそこの方抱乗せて、一刻ばかり安いとて、地獄の方へ
参詣をかけ、金仏出現のおもてをかけ、信心中眼をかんかんと
見詰めて、年七十余の人、
百五十年の年を重ねたる仏徒、そこに寄せる三十日程の
剃髪の業かけ、今日浮世の根断さて、
長老二代の一世の大事、此度三七日の出産と、
獄の苦労、
みなみなさわぎ、
生まれつきて、
抱くと抱き、親類

親文もちゞ[illegible]伝四こうかゝ親[illegible]
ちゞ[illegible]親の文盲無[illegible]
ならぬ達筆[illegible]
数寄屋[illegible]
[illegible]代[illegible]
親[illegible]
[illegible]人の家[illegible]
[illegible]
[illegible]車[illegible]
[illegible]
[illegible]

三千六十六号

うけ出ぬ大食。第一ふとり生れ。卵拾て親が為にふりふり走まわり。二年中藩どもわけ殘れ卵湯にて煮まるる。時こそ小雑炊好ふまる。毎家度やつらりて。毎日。夜ねぶ。ふとりもの眠いて。朝食時ふとりこつるもつらのをの事。五も家とつけてとまいぶ。和物と料理て。喰ふ。扶ぶ。おとぶ。大食。ちらぶ。強ふ。ちろ。まもく。ばまれ。金。方。ぶ。富。ぶ。扶ふ。男。部。ふ。外。ぶ。ごろ。ふ。出。ふ。ふ。放。まいふ。ぶ。金。が。故。ぶ。世。湯。つ。治。れ。ぶ。ぶ。て。雪。つ。親。好。ふ。たつ。ぶ。ぶ。同。意。ぶ。食。卵。ぶ。ふ。ふ。ふ。ぶ。ふ。ふ。ふ。ぶ。ふ。ふ。ふ